

5月5日は、「こどもの日」で祝日ですが、「自転車の日」でもあります。自転車月間推進協議会が定めました。

1981年5月に「自転車の安全利用の促進及び自転車駐車場の整備に関する法律」（自転車基本法）が施行され、5月は自転車月間とされています。自転車の安全運転、対歩行者事故の防止等を目的として、自転車利用者の交通ルール遵守及び交通マナーの向上を図ることを目的としています。

エコで、健康のためにも良い自転車。私も30年以上前に買った自転車を、昨年度倉庫から引っ張り出し、整備して、休みの日などに乗るようにしています。

ところで、自転車はいつごろからあるのでしょうか。そして誰が作ったのかが気になったので調べてみました。

1813年、ドイツの発明家カール・フォン・ドライス男爵が、ペダルもブレーキもない足で蹴って前に進む二輪車「ドライジーネ」を開発しました。これを「最初の自転車」というには、少し無理があるかもしれませんが、自転車の原型と言えるでしょうか。ちなみにこのドライス男爵は、タイプライターの発明者でもあります。



1863年。フランスのピエール・ラルマンが前輪にペダルを取り付け、今の三輪車のような形をした自転車を作りました。鍛冶屋のピエール・ミショーという人が、このアイデアを生かし商品化しました。なんと、1年に約1000台も売れる大ヒット商品になったようです。前輪にペダルが直接付けてあるので、ペダルを1回転させると前輪が1回転する仕組みとなり、速く走るためには前輪を大きく必要がありました。ただ、ペダルは重くなります。



現在の自転車のように、ペダルの動力をチェーンで後輪に伝える形のものを作ったのが、イギリスのハリー・ジョン・ローソンという人で、1879年のことでした。ローソンはこの乗り物をフランス語で《二つの小さな輪》を意味する「ビシクレット」名付けました。その英語読みが「バイシクル」となるので、つまり自転車となります。

その後改良を加えられ、ジョン・ボイド・ダンロップ（ダンロップというタイヤメーカーの創始者）が、空気を入れたチューブタイヤを発明したことで、現在とほぼ変わらない自転車が完成することになります。

五月晴れの連休に、自転車でお出かけするのもよいかもしれませんね。ただし、交通事故に遭わないように十分に注意してくださいね。